

機関番号：31307

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21730706

研究課題名(和文) 日韓交流の促進を目指した日本語・韓国語教材開発に関する研究

研究課題名(英文) Developing teaching materials for Japanese and Korean languages that aim to promote interaction between Japan and Korea

研究代表者

澤邊 裕子(SAWABE YUKO)

宮城学院女子大学・学芸学部・准教授

研究者番号：40453352

研究成果の概要(和文)：

本研究の目的は、日韓高校生間における交流の実態を把握した上で、それらをもとに韓国における日本語教育、日本における韓国語教育の現場に役立つ教材(日韓交流学習事例集)を制作し、日本語教育と韓国語教育の連携を促すことである。2010年度に作成した日韓交流学習のデータベースに基づき、実践のアイデアをまとめた『隣国のことばと文化を学ぼう～日韓交流学習事例集』を制作し、2011年3月に一般公開した。交流学習を通して隣国のことばと文化を学び合う新たな実践例として活用が期待される。

研究成果の概要(英文)：

The purpose of this study is to develop teaching materials for Japanese and Korean languages that promote cooperation between Japanese and Korean language teachers. A web site named, "A case study of exchange programs for Japanese and Korean language learners" was opened in March 2011 and is based on a database of exchange programs. This site contains useful material for both Japanese and Korean language teachers who are interested in exchange programs.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：日本語教育、韓国語教育、日韓交流

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本と韓国は近年、互いの大衆文化に対する関心の高まりなどから交流活動が年々活発化してきている。しかし日韓は依然として領土問題や歴史認識問題といった大きな外交上の問題を抱え、互いに複雑な感情を持ちながら現在に至っている。日韓の交流授業はこうした背景のもと、主に社会科教育や異

文化間教育において実践が積み重ねられてきた。

(2) 社会科教育、異文化間教育の観点からの先行研究では、何らかの翻訳支援体制を通して交流を行っているため、自分の言葉が相手にストレートに伝わっているかどうかを考えると限界があるものと考えられる。本研究はこ

うした翻訳をなるべく介さずに言語教育を通じた交流活動を行うために役立つ、授業で活用できる教材を開発しようとするものである。

(3) 韓国の日本語学習者は約 76 万 9 千人であり、世界一の学習者数を誇る。韓国の高等学校では第二外国語の履修が必修となっており、学習者数の大部分が日本語を第二外国語として学ぶ高校生である。一方、日本の高等学校では第二外国語が必修とはなっていないものの、近年の日韓交流の活発化により韓国朝鮮語教育を行う学校が増えてきている。このように日本と韓国では隣国の言語を学ぼうとする方向性が今後も続き、さらに発展する可能性がある。

(4) 日本語教育と韓国語教育が協働して行う日韓交流授業に関する実践報告は少ない。特に日本の高等学校における韓国語教員のネットワークができ、各教員の授業実践が共有され始めたのは近年のことで、研究活動はまさに今活発化しようとしている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日韓の高校生間における交流の実態を把握したうえで、それらをもとに韓国における日本語教育、日本における韓国語教育の現場に役立つ教材（事例集）を制作し、日本語教育と韓国語教育の連携を促すとともに、言語教育を通してバランスの良い日韓交流を促進することである。本研究では教室でそのまま活用できる素材をインターネット上で公開することを目指す。日本語教育あるいは韓国語教育において交流活動を教材化したものは現在あまり見られないことから、言語教育の枠組みの中で行う日韓交流学習のシラバスを具現化した教材の開発は今後の中等教育における日本語・韓国語教育の発展に貢献するものとなるだろう。

3. 研究の方法

(1) 2 年間の計画の概要

平成 20 年度に実施した「日本語・韓国語教育の協働による日韓交流授業」の実践を踏まえ、本研究ではさらに発展した交流学習を実践するとともに、日本や韓国の高校において実施されている様々な日韓交流の事例を調査し、データベースを作成する。さらに、それらを踏まえて韓国の日本語教育現場、及び日本の韓国語教育現場において使用できる授業事例集を開発する。教材はインターネット上でダウンロード可能なものとし、一般公開する。日本語教育と韓国語教育の協働による日韓交流学習の実際とその意義について考える機会を提供し、広く共有されることを目指す。

(2) 2009 年度の計画

- ① 高校における日本語コースと韓国語コースの運営及び授業事例データベースの作成
- ② 日本と韓国の高校における交流活動の事例調査

2009 年度は筆者自らの授業実践だけでなく、他校が実施している日韓交流授業を調査し、教材化のためのデータベースを作成する。筆者が運営する日本語コースは正規授業内だけでなく、教師の裁量の自由度が高い放課後の時間において開設する。コースは前期 20 回、後期 20 回の総学習時間 40 時間を目安にし、その中でコンスタントに交流活動を行っていく。

日韓交流活動を行っている学校の調査は、関係する研究会を通じて調査の依頼をする。また、実際の交流場面を観察し、交流場面において日韓の高校生同士がどのようにコミュニケーション活動をとっているかを記録し、その実態を把握することにより開発する教材の内容の充実を図る。

(3) 2010 年度の計画

Web 上で公開する教材『日韓交流学習事例集』の制作

2009 年度に作成した日韓交流活動データベースに基づいて、日本語を学ぶ韓国の高校生や韓国語を学ぶ高校生に役立つ交流学習の事例をまとめた教材を制作する。この教材は、データベースから 10~20 個実施した交流活動を選ぶ。この教材の言語は日韓併記とする。完成物は韓国の中教育機関における日本語教師ネットワークや日本の高等学校韓国朝鮮語教師ネットワークのホームページにリンクしてもらい、多くの教師が利用できるものにするとともに、フィードバックをもらい、教材の評価と改善につなげる計画である。

4. 研究成果

(1) 2009 年度の成果

2009 年度は昨年度まで筆者が実施してきた日韓交流授業で学習者が使用したり作成したりした学習資料とそれらを通して学んだ学習者の学びについて分析するとともに、現在日韓で行われている交流活動の実態調査を行った。さらに学校ホームページ等を通して、52 事例の情報収集を行い、日韓交流活動の事例データベースを作成した。

① 学習資料の分析結果

日韓交流授業で生徒が作成した資料の中で使用されていた語彙について分析した結果、

使用頻度が高い語ほど韓国のカリキュラムの範囲内にある基本的なもので、比較的易しいものであることがわかった。また、使用した文に関する分析結果では、初級レベルの文法・文型の使用がほとんどで、初級修了レベルの学習者であれば理解できる範囲の日本語であることがわかった。実際に交流活動を行っている相手の韓国の生徒に対して、日本の生徒が作る手作りの資料には、日本語学習及び文化理解のためのエッセンスがたくさん詰め込まれている。モジュール型教材として活用できる可能性がある。読んで語彙や文法を学ぶことの他、自分たちと比較して述べたり、感想を述べたり、相手に対する質問を考えたりしながら、多くの表現機能を持つ文を用いる練習を行い、より多様な日本語表現を学ぶことが可能となる点を指摘した。

② 日韓交流学習の実態調査結果

日本語教師及び韓国語教師への聞き取り調査、韓国中等日本語教師119名に対する質問紙調査を実施した。この結果日韓交流活動の必要性は感じているが方法がわからない・相手校がない・時間がない等の理由で実施に至っていないという回答が目立った。また、日本の高校の韓国語教師との情報交換の場（ホームページ等）があれば活用したいという声が多く寄せられ、韓国語教育との連携に対する関心が見られた。事例データベースをもとにして制作するWEBページ高校生間の日韓交流を促進する日本語、韓国語授業の実践に貢献する可能性が見いだせた。この調査の結果については韓国日本語学会の第21回学術発表会において発表した。

(2) 2010年度の成果

2010年度は2009年度に作成した日韓交流学習のデータベースに基づき、日韓交流学習の事例集WEBページ『隣国のことばと文化を学ぼう～日韓交流学習事例集』（<http://www.jk-exchange.com>）を制作した。制作にあたっては、実際に交流学習に携わった経験のある現場の教員にも原稿の校正や執筆、翻訳などの面で協力を得た。このWEBページは「日韓交流学習の目的とかたち」「日韓交流学習のデザイン」「トピック別実践事例集」「付録」の大きく4つの内容で構成されている。



図1 WEBページ『日韓交流学習事例集』のトップ画面

① 日韓交流学習の目的とかたち

このページでは、ことばと文化を学ぶ日韓交流学習導入の背景とメリット、意義や形態などをまとめている。



図2 「I 日韓交流学習の目的とかたち」トップ画面

② 日韓交流学習のデザイン

交流学習をデザインする上で留意すべきポイントやカリキュラムデザインの方法について事例をもとに紹介した。

構成は、「1. 必要なステップ」「2. 交流学習を行うクラス組み合わせのパターン」「3. 交流学習で可能となる教室活動の例」「4. 運営上のポイント」「5. 質問コーナー」とした。



図3 「II 日韓交流学習のデザイン」トップ画面

③ トピック別実践事例集

交流学習の11事例について、個々の授業の目標、教材・教具、授業の流れなどを報告している。事例集のもととなったこのクラスでは、日韓の生徒たちが交流学習によって互

いに自分や自分たちの生活についての情報交換を行い、その情報を比較・考察し、自分なりの視点を養うことをゴールとしたものである。1年間の授業計画及び教材例、授業を実践する上で留意しなければならない点などを事例に基づいて紹介している。教材例はダウンロードができるようになっており、修正を加えて自身のクラスにおいてアレンジ・活用できるようになっている。



図4 「Ⅲ トピック別実践事例集」トップ画面

④付録

トピック別実践事例集の項目に即した形で、関連する文化テーマをミニコラム風にまとめた「日韓文化ミニコーナー」を設けている。さらに、このWEBページを制作するにあたってのこれまでの研究成果（研究発表の要約）をパワーポイントにまとめ、ダウンロードして閲覧できるようにした。これにより、本WEBページの制作意図が一般の人々にもわかりやすくなるように工夫をした。



図5 「付録」トップ画面

以上が、『隣国のことばと文化を学ぼう～日韓交流学習事例集』WEBページの概要である。このWEBページは2011年3月に一般公開され、公開翌日に国際文化フォーラムの韓国語教師、中国語教師向けに配信されるメールマガジン「Ringo」において教師に役立つサイトとして紹介された。本サイトがきっかけとなり、第1回駐日韓国文化院世宗学堂主催の韓国語教師週末研修において、日韓交流学習におけるICT活用に関する講義を行うこ

とになるなど（2011年6月4日）、韓国語教育の方面で徐々にこのような日韓交流学習への関心を高めつつある。一方、韓国においても韓日本語教師ネットワークのWEBページにおいてリンクが張られ、日本語教育、韓国語教育両面で本WEBページの活用が期待される。

今後の課題は、日本語教育、韓国語教育の教員ネットワークを推進すべくさらに本WEBページを改良することと、フィードバックを得ることにより今後さらに必要とされる日韓交流学習の支援の在り方について具体的に考え、実践していくことである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ①澤邊裕子、韓国の日本語学習者と日本の韓国語学習者間における交流学習、日本語教育、査読有、146号、2010、pp.182-189
- ②澤邊裕子、韓国語教育と日本語教育の連携の可能性－日韓高校生間の活動型授業の実践報告－、朝鮮語教育、査読有、5号、2010、pp.36-55
- ③澤邊裕子、韓国の高校生を対象とした日本語学習資料の新たな可能性－日本の高校生が作成した日本語資料の分析から－、日本文学ノート、査読無、44号、2009、pp.133-118

〔学会発表〕（計3件）

- ①澤邊裕子、交流学習のカリキュラムデザインと実践、高等学校韓国朝鮮語教育研修大阪大会、2010年11月27日、大阪府立桃谷高等学校
- ②澤邊裕子、韓日学校間交流学習に関する一考察、韓国日本語学会、2010年3月20日、誠信女子大学校
- ③澤邊裕子、韓国の日本語学習者と日本の韓国語学習者間における協働型学習モデルの構築、日本語教育学会、2009年9月26日、日本学生支援機構大阪日本語教育センター

〔その他〕

ホームページ等

「隣国のことばと文化を学ぼう－日韓交流学習事例集」

<http://www.jk-exchange.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

澤邊 裕子 (SAWABE YUKO)

宮城学院女子大学・学芸学部・准教授

研究者番号：40453352